

新しいタブレット端末導入による変化とこれから

文部科学省は、2020年よりGIGAスクール構想を開始しました。GIGAスクール構想とは、全国の小中学校を対象に1人1台の情報端末と高速ネットワークを整備し、子どもたちの学びをアップデートする取組です。

本校では、これまで120台のタブレット端末を全校児童生徒で共有しながら授業や学校生活の中で活用してきました。数の制限や使用時の不都合、管理上の課題など、さまざまな難しさと向き合いながら活用を進めてきましたが、12月より新しいタブレット端末が追加で導入され、3年生以上の「1人1台端末」が実現しました。

1人1台になったことで、机の中や個人ロッカー、教室の充電保管庫での管理が可能になり、児童生徒は、いつでも手軽にタブレット端末を活用することができるようになりました。子どもたちには、自分のタブレット端末になったという愛着を持つ様子もうかがえます。



今後は、より身近になったタブレット端末を授業や行事、その他の場面でも積極的に使いながら、情報活用能力や情報リテラシーを高め、国際社会にたくましく生きる児童生徒を育成してまいります。

つながりを実感する読み聞かせ

本校では、小学部の児童を対象にして毎月1回第3木曜日を基本に、保護者による読み聞かせを行っています。この読み聞かせは、児童が様々な本に興味を持ち、発想力や想像力を養えるようにすることを目的としています。児童たちは、この読み聞かせの時間を毎回楽しみにしています。

毎月20名近くのボランティアが来校され、朝学習の時間を活用して各学級で絵本や紙芝居などの読み聞かせ、ブックトークなどを実施していただいています。本の内容やテーマは、ボランティアの方にお任せする場合と、学習との関連や児童の実態を基に学校側から希望を出す場合があります。どちらの場合も魅力的な本を選定していただいています。

新しい見方や考え方を身に付け、心を豊かにする「本との出会い」。そして、海外で生活する児童にとっての日本人学校の保護者との貴重な「触れ合いの時間」。これからもこの2つを大切に、保護者の方と協力しながら読み聞かせの活動を充実させていきます。

